令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	14	学 校 名	茨城県立常陸大宮高等学校				課程	全日制		学校長名	工藤 博幸					
教頭名	矢野 賢								事務 (室) 長名	堀 昭則						
教職員数	教諭	27	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手	4	事務職員	3	技術員等	4	計	50
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		9	11	8	9	2	6			19	26		3		
	機械・情報技術科		16	0	24	1	24	0			64	1		3		
商業科		2	2	2	5	3	6			7	13	3				

2 目指す学校像

- 一人一人を大切にし、誰もが安心して学べる温かみのある学校
- 多様性を尊重し包摂的な意識を育む学校
- 個に応じた学力を保証し、確かな進路実現力を育てる学校
- 自らのよさや可能性を認識し、適切な自己決定ができる力を育てる学校
- 地域や多様な人材とつながり、持続可能な社会づくりに貢献する学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの個性や強みを深く理解し、肯定的に受け止めることで、日常生活や社会生活において適切な自己決定ができる力 ○ 個々の学力を基盤としながら、自らの興味・関心や適性に応じた目標を設定し、その達成に向けた粘り強い取り組みにより、生涯にわたって学び続けようとする力 ○ 多様な立場や価値観を理解し、思いやりと他者尊重の心をもって他者と関わることで、信頼と協力に基づく人間関係を築き、協働してより良い社会の実現に貢献しようとする力 ○ 地域の一員としての自覚を持ち、地域の課題に関心を寄せ、地域社会の活性化や持続可能な社会の実現に向けて当事者意識を持って参画し、主体的に行動する力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりに寄り添った学習指導の推進 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現 ○ 多様性を尊重しながら、共に学び協働する力の育成 ○ 安心して学べる学習環境の整備 ○ 個の特性に応じたきめ細やかな進路支援の実施
<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心できる学びの場の中で、自分らしく学びたいと願う生徒 ○ 他者との違いを前向きに受け止め、多様な価値観や背景への理解・尊重に向けた意志のある生徒 ○ 進路実現に向け、粘り強く取り組む意志のある生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	学習への取り組みが十分でなく、真の学力が身につけていない。	生徒一人一人の基礎学力の定着を図れるか。 進学指導・課外指導の充実及び継続化を図れるか。
進路指導	自身の表現力に課題があり、自己の能力を過小評価しているため、目標に向かって頑張る姿勢	勤労観、職業観を1年次から育成できるか。外部講師等の効果的な活用により進路指導の相乗効果を上げられるか。

別紙様式 1 (高)

	を育む必要がある。	就職先の開拓をよりすすめられるか。向学心を高め上級学校に向けて計画的な課外学習が確立できるか。個別面談により生徒の進路希望の状況を把握できるか。
生徒指導	基本的な生活習慣が確立されていない者がいる。規範意識の醸成が十分とは言えない。	生徒指導全般において、未然防止を目的とした生徒指導の展開を目指せるか。全職員の共通理解・共通認識による共通実践を目指せるか。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率や継続率が依然として減少傾向である。活動実績も停滞している。特にチームスポーツでは、大会参加にかかる人数を確保できないなど深刻である。 ・学校行事や地域イベントなどに主体的に取り組む生徒は一部である。特定の生徒に偏ることで負担が増えているように感じる。 	<p>部活動については、活動している姿を様々な手段でアピールすることで興味関心を持ってもらうことができるか。</p> <p>学校行事については、委員会活動の編成を変更したが、生徒が主体的に参加する機会となるか。</p> <p>地域イベントは、三学科合同で実施できるよう時間割を見直した。時間の少ない中で、生徒が協力して進めていくことができるか。</p>
教職員の勤務状況	在校等時間が長くなっている教職員がいる。	業務量の適切な管理を行うことができるか。また、業務の効率化や超過勤務に対する教職員の意識改革を図り、1か月の時間外在校等時間を45時間以内、1年間の時間外在校等時間を360時間以内に収められるか。

5 中期的目標

- 生徒の学習進度や理解度に応じた、きめ細やかで柔軟な指導を実現させることによる、学びへの意欲と自己効力感の育成。
- 心の健康に配慮した相談体制を整え、生徒が安心して学べる温かな環境の提供。
- アクティブラーニング、課題解決型学習、ICTの活用など、多様な学習の手立てを取り入れることにより、生徒が主体的に学びに向かい、他者との対話をとおして思考を深められる授業を展開。
- 協働的な学習活動を意図的に導入し、コミュニケーション能力の向上と互いを認め合い尊重する態度を育成。
- 3年間をとおした系統的なキャリア教育プログラム（自己分析、職業研究、インターンシップ、進路相談等）を実施し、進学・就職を問わず、自ら納得のいく進路を主体的に選択・実現できる支援の実現。
- 文部科学省や県教育委員会から示されている各種資料をもとに、業務の量や分担の適正化を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や主体的な業務の改善への取り組みをとおして時間外在校等時間の減少を目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教育課程の充実	<p>「個々のよさや才能を開花させる基盤づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入学生の実態を詳細に分析し、一人一人の学習状況に対応した習熟度別・少人数学習を実践する。 ○ 各学科の独自性と強みを最大限に活かした特色ある教育課程を編成・実現する。 ○ 多様な進路希望に柔軟に対応できる教育課程を整備する。
学習指導の充実	<p>「知る喜びと探究心を育む学びの場の創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICTの効果的活用により、学習内容の理解度向上と学習意欲の喚起を図る。 ○ 各種テストによる理解度の可視化と、それに基づく個別最適化された指導を通じて、基礎・基本の確実な定着を実現する。 ○ 観点別評価を用いた学習評価により、個々の課題を明確化し学習意欲の向上につなげる。 ○ 高度な問題への挑戦機会の提供など、進学希望者向けの個別指導を充実させ、学力の更なる伸長を図る。 ○ ICT教材の研究開発、教員間の授業相互参観、教科内連携・研修を通じて、指導の質的向上と革新を推進する。 ○ 問いの立て方や情報収集・整理分析・まとめ・表現の指導を充実させ、自ら課題を発見し解決する探究的な学びを推進する。
進路指導の充実	<p>「未来を切り拓く力の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 傾聴力・表現力・社会人基礎力を段階的に育成する 3 年間一貫の指導体系を構築し、進路実現力の向上を図る。 ○ 外部専門家との連携、インターンシップ、進路説明会への主体的参加を通じて、キャリア意識の醸成を促進する。 ○ 学習意欲の喚起と計画的な課外授業の提供により、大学進学に対応できる確かな学力の獲得を支援する。
生徒指導の充実	<p>「自律と共生の精神を育む」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的な生徒理解のため、個別面談、意識調査、家庭訪問、特色あるホームルーム活動を積極的に展開する。

別紙様式1 (高)

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶・身だしなみ等のマナーの重要性を理解させ、社会性と基本的な生活習慣、規範意識の確立を促進する。 ○ ボランティア活動への参加を奨励し、社会の一員としての責任と自覚を養う機会を創出する。 ○ 学校・家庭間の緊密な情報共有体制を構築し、問題行動の未然防止および早期解決を図る。
<p>特別活動の活性化</p>	<p>「協働と挑戦を通じた成長の場の創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生の部活動への積極的参加を促し、学校全体の活力向上と、規律ある生活態度・自律性を備えた生徒の育成を図る。 ○ ホームルーム活動、委員会活動、生徒会活動の内容を充実させ、全ての生徒が自主的・主体的に参画できる環境を整備する。
<p>キャリア・パスポートの積極的活用</p>	<p>「自己成長の軌跡を記録した、未来への道標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業、学校行事、部活動などの多様な経験において自己目標を設定し、定期的な振り返りと修正を通じて、自分らしい生き方を模索する力を育む。 ○ 地域社会や企業との連携を通じて、学びと働くことの意義を考察し、現在の学習と将来像を有機的に結びつける視点を養う。
<p>地域連携の推進</p>	<p>「開かれた学校づくりと地域貢献」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ウェブサイトの内容充実により、保護者・地域・中学校等への効果的な情報発信を強化する。 ○ 学校外からの意見や評価を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会の三位一体による教育活動を展開する。 ○ 地域行事やキャンペーンへの積極的な参加を奨励し、地域社会との連携強化と生徒の活躍の場の拡大を図る。
<p>働き方改革の推進</p>	<p>「教職員の専門性と創造力を最大化する環境整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務の性質に応じた適切な役割分担（学校外が担うべき業務、教師以外が担当可能な業務、教師の負担軽減が可能な業務）を見直し、教員の本来業務への集中を可能にする。 ○ 勤務時間の可視化管理、各種活動の時間設定の適正化、学校閉庁日の設定、ICT教材の共有化により、意識改革と時間外勤務の抑制を図る。 ○ 教職員間の相互理解と協力体制を強化し、業務負担の平準化と職場環境の改善を推進する。

別紙様式 1 (高)

授業改善の推進	<p>「未来を見据えた学びの質的転換」</p> <ul style="list-style-type: none">○ 全教職員による授業研究協議の場を定期的に設け、多様な視点からの改善アイデアを共有し、教科横断的な学びの機会を創出する。○ 育成すべき資質・能力を明確にした上で、授業の各要素（ねらい、課題、発問、板書、まとめ、振り返り）を工夫し、評価項目を可視化して生徒と共有することで、授業の質的向上を図る。○ 生徒からのフィードバックと教員間の相互評価に基づき、理想の授業像を追求し継続的な改善を行う。○ 教科特性と生徒の実態に応じた最適な ICT 機器の活用により、多様な学習形態と表現方法を実現する。○ 指導計画、教材、教授資料の組織的共有を促進し、効果的・先進的な取り組みを学び合う文化を醸成する。○ 生徒による授業評価において、授業満足度（KPI）3.4以上の達成を目指す。
---------	---